

北海道森林管理局

1. 北海道の森林・林業の概況について

- ① 管内の森林面積は約550万ha（全国の約2割）。北方系針葉樹と広葉樹が混交した天然林が広がるほか、150万haのトドマツ・カラマツの人工林の多くが本格的な伐採・利用期。
- ② 森林面積のうち国有林は約300万ha（約5割）。人工林のうち国有林は約65万ha（約4割）。公益的機能の発揮、木材の安定供給及び地域への貢献に向けた取組を推進。
- ③ 事業量が増加する一方、林業労働者数は横ばいで推移（4,200人前後）。人手不足が深刻化。道産材供給量は約450万m³（うち国有林から約100万m³）。建築用材としての利用は2割程度と低位。

2. 地域の課題に対する森林管理局の取組について

① 人手不足が深刻化する中での事業の効率化・人材の確保

- ア 人力作業を抜本的に見直し、機械地拵え・下刈り、携帯アプリによる丸太生産作業の分析とボトルネックの改善、ドローン・レーザ機器による治山・林道の測量・調査、ICT施工の導入などにより、効率化、軽労化、生産性の向上、安全確保を推進し、「現地検討会」等を通じて民有林関係者に発信。
- イ 人材の確保・育成と森林・林業・木材産業の魅力発信のため、市町村職員の研修受入れ、高校へのリクルート活動、学生向けアンケートなどを実施。有志による広報ワーキングチームが現場作業の動画などを発信。

② 道産材の需要拡大・安定供給

- ア 道産材の建築材としての道内利用促進に向け、安定供給システム販売*による供給を推進。
- イ 民有林と連携し中間土場を設置。原木の安定供給が可能な環境を整備。
- ウ 国産広葉樹材に対するニーズ増大を踏まえ、人工林に混生する広葉樹に加え、公益的機能を確保しつつ、天然林広葉樹の供給も試行。
- エ 公共建築物等への木材の需要喚起に向け、北海道及び関連団体と管内市町村へのキャラバンを実施。

*需要者と協定を締結し直接安定的・計画的に供給する販売方法



大型機械による地拵え



リモコン式機械による下刈り



中間土場から大型トレーラにより運搬



災害調査におけるドローンの自動航行演習



林業の現場作業の動画をYouTube配信



公共建築物における道産材の積極利用を要請（札幌市）

東北森林管理局

1. 東北の森林・林業の概況について

- ① 管内の森林面積は約372万ha。人工林はスギ主体で、岩手県にはカラマツも多い。ブナ・ミズナラなどの天然林も多く、白神山地は世界自然遺産に登録。
- ② 森林面積のうち国有林は約165万ha（約4割）。
- ③ 主伐期を迎えた森林では、適切な伐採と将来を見据えた再造林の推進が課題。また合板、集成材など大型木材加工工場が多く立地し、本年、国内製材最大手が秋田県に進出。



【大型製材工場への丸太の直接搬入】



【植栽4年後の成長に優れたスギ苗（左）と普通苗（右）の比較】

2. 地域の課題に対する森林管理局の取組について

① 大型製材工場への対応も含めた国有林材の安定供給

国有林材の山元での滞留や虫害による材質劣化を防ぎ、安定供給を図るため、生産した丸太を直接大型製材工場に持ち込み、工場が所有する自動選別機により数量等を確定する仕組みを秋田県内で試行。（令和6年度予定量：3,000m³）

② 特定苗木*等の安定供給に向けた取組

成長に優れ花粉も少ない特定苗木等の供給拡大や安定供給に資するため、管内5県の種苗組合との意見交換等の場において、各県における特定苗木種子の採取・配布状況や苗木の生産見通し等の情報の共有を図るとともに、国有林としての活用方針を示し、特定苗木の増産等を要請。

（花粉の少ない苗木：令和5年度37万本使用、令和6年度85万本を計画）

*成長に係る特性が特に優れる等、農林水産大臣の指定を受けた特定母樹から採取された種穂から育成された苗木。

③ 森林環境教育の推進

再造林等の森林整備への地域住民等の理解を増進するため、森林管理署職員が教材として考案した森林づくりを題材にしたカードゲーム「ZORING（ゾーリン）」*の普及を推進。（令和6年4月以降、全国の市町村や企業等から30件以上の問合せ）

*病虫害の対策等も行いつつ、森林整備を進めていく対戦型カードゲーム。



【ZORINGのカード（上）と東北農政局イベントでの活用（下）】

関東森林管理局

1. 関東の森林・林業の概況について

- ① 管内の森林面積は約407万ha。
- ② 森林面積のうち国有林は約119万ha（約3割）。利根川、信濃川等の上流水源地となっているほか、大規模な製材工場等が立地する首都圏への木材供給基地。
- ③ 日光、尾瀬といった国立公園などが数多くあり、管内の国有林の約4割がこれら公園エリアに指定。なお、高尾山の多くも国有林であるほか、世界遺産の小笠原諸島や富士山にも国有林が所在。
福島には、いまだ比較的線量の高い帰還困難区域に指定されている森林が約2.5万haあるが、そのうち約1.7万haは国有林。



【日光国立公園（鬼怒沼）】



【尾瀬国立公園（ブナ林）】

2. 地域の課題に対する森林管理局の取組について

① 花粉発生源対策の推進

首都圏を抱える当局の重要課題として認識。「花粉の少ない苗木」を確実に確保し、スギ人工林の伐採・植替えを加速化させるため、昨年度から苗木生産者との生産協定による苗木を導入し、安定的な苗木確保等に尽力。

② 福島県の森林・林業再生に向けた取組

特定帰還居住区域（昨年～）等における避難指示の解除が進む中、福島県の復興に向け帰還困難区域を含めた森林・林業の再生が求められているところ。このため、当局では本年度から帰還困難区域内の国有林において、モニタリングやレーザ計測データ等による線量や荒廃地などの現況把握を開始。

③ 地域に寄り添った迅速な災害対応

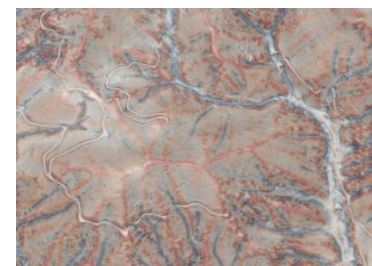
近年頻発する豪雨などによる山地災害には、管内自治体と連携して迅速・的確に対応することが必要。本年1月の能登半島地震では、新潟県でも震度6弱を観測したことから、県と合同でヘリコプターによる管内の被害状況調査を速やかに実施。



【花粉が少なく成長の早い特定苗木】



【一般的な品種と花粉の少ない品種】



【荒廃地などを判読する
CS立体図】



【ヘリコプターによる調査】

中部森林管理局

1. 管内（富山・長野・岐阜・愛知）の森林・林業の概況について

- ① 管内の森林面積は約240万ha。
- ② 森林面積のうち国有林は約65万ha（約3割）。天然林56%、人工林26%のほか、高山帯（岩石地）が18%占めるのが特徴。人工林はカラマツ（人工林の42%）、ヒノキ（同38%）が主体。
- ③ 日本アルプスの太宗が含まれ、貴重な森林生態系を含む高山帯も多く、自然公園は所管国有林の約5割。中央構造線、フォッサマグナ等急峻かつ複雑な地形、脆弱な地質構造に立地しており、計画的な治山事業を実行。

2. 地域の課題に対する森林管理局の取組について

① 地域特性やニーズに対応した特色ある木材の供給

伊勢神宮式年遷宮用材や文化財修復用材としての木曽ヒノキ等の供給に加え、カラマツ大径材のブランド化を図るなど地域の特色ある森林資源を最大限活用し供給。さらに、カラマツの活用に向けた戦略会議の開催、広葉樹の高付加価値化に向けた仕分け供給にも取り組み。広葉樹林の取扱いについては、利用方策のみならず資源の持続性にも着目した森林づくり方法を検討。

② 中央構造線・フォッサマグナに位置する管内の国土強靱化

破砕帯*周辺地域や地震・台風などの被災地域において、治山事業の継続的な実施による地域の安全な暮らしに助力。県からの要請を受け実施している民有林での治山事業は管内5地区(全国17地区)、地すべり防止事業は2地区(全国7地区)と多く、加えて、能登半島地震や豪雨災害の影響により、黒部、上高地など山岳観光地でも山腹崩壊や土石流が発生し、復旧工事等に着手。 *断層運動により岩盤が砕け脆くなった地層

③ 地域素材を生かした森林サービス産業への協力

管内は山岳観光や登山などに関する森林空間利用が盛んな地域であって、従前より関係機関等とその振興に協力するとともに、マウンテンバイク競技やロングトレイル*整備など、新たな利用形態にも積極的に協力。

*歩く旅を楽しむために整備された道



【式年遷宮用木材の伐り始めの祭事】
（御杣始祭）

【北アルプスの貴重な森林生態系を保全】



※直近のH17年の様子



【信州プレミアムカラマツの出荷】



【溪谷鉄道を一時閉塞させた土砂が撤去された状況】



【地元NPOとの協定によるトレイルコース（延長約110km）の整備】